

同和問題解決・人権政策研究大阪集会

ご案内

21世紀の幕が明け、7年が経過しました。人権の21世紀と叫ばれておりますが、人権をとりまく現実には、非常に厳しいものがあります。

格差社会の拡大のもとで、社会的困難を抱えた人たちの状況はますます悪化の一途をたどっており、あわせて、行政書士による戸籍不正入手事件など、悪質な差別事件が続発し、厳しい差別の現実が存在しています。

このような現状を踏まえ、差別・人権侵害の実態、格差社会の実態を明らかにし、人権教育・啓発のあり方、人権侵害救済のあり方をはじめ、新たな人権政策のあり方や方向を明らかにしていくことがますます重要となっています。

同和問題解決・人権政策の方向について多くの被差別当事者とともに、行政、企業、教育、宗教をはじめ人権問題に取り組む多くの関係者とともに、学習・研究・創造する研究集会を開催していきたいと考えております。

あらゆる分野で取り組まれているみなさまの、研究集会への積極的な参加を呼びかけます。

2008年1月

とき

2008年 **3月15日** (土)
午前10時 (開場9時)～午後5時

記念講演

現代の貧困と行政の人権的課題
湯浅誠 さん (NPO法人自立生活サポートセンター・もやい事務局長)

ところ

大阪市立浪速人権文化センター他
TEL.06-6568-0791
JR環状線「芦原橋駅」下車すぐ

内容

全体会 10:00～12:00
分科会 13:00～17:00

主催

同和問題解決・人権政策研究
大阪集会実行委員会

●分科会テーマ

- I「差別・人権侵害の実態把握と被害の救済」
- II「格差社会の是正と人権政策」
- III「人権教育・啓発のあり方」
- IV「人権条例と人権のまちづくり運動」

参加・資料代

3000円 (昼食弁当代は除く)

趣旨

1. 差別・人権侵害の実態把握と当事者の人権行政への参画のあり方を考える。
2. 格差社会の実態を明らかにし、その是正にむけた人権政策を考える。
3. 人権意識調査結果や人権侵害事象をふまえ、人権教育・啓発のあり方を考える。
4. 人権侵害救済の法制度、障害者差別禁止条例など人権侵害救済のあり方を考える。
5. 地域のまちづくり運動に学び、人権のまちづくりについて考える。
6. 人権問題解決へ行政、当事者、企業、NPO、研究者、市民のつながりをつくる。

主催

同和问题解決・人権政策研究大阪集会実行委員会

- ・ 実行委員会委員長：寺木伸明（（社）部落解放・人権研究所理事長）
- ・ 事務局：（財）大阪府人権協会

全体会

10:00～12:00 大阪市立浪速人権文化センター大ホール

- ・ 主催者代表あいさつ 寺木 伸明（実行委員会委員長）
- ・ 基調提案 北口 末広（実行委員会事務局長）
- ・ 記念講演

テーマ 「現代の貧困と行政の人権的課題」

講師：湯浅 誠^{さん}（NPO法人自立生活サポートセンター・もやい事務局長）

分科会

13:00～17:00

I「差別・人権侵害の実態把握と被害の救済」：大阪市立浪速人権文化センター2階小ホール

差別や人権侵害を発見・把握し、被害者の具体的で、実効性のある救済の仕組みをつくっていくため、現行制度や地方自治体の先例に学び、人権侵害被害の救済について議論を深めていく。

（1）学習会

①「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例（障害者差別禁止条例）」に学ぶ／横山正博さん（千葉県障害福祉課障害者計画推進室長）②「鳥取県人権侵害救済推進及び手続きに関する条例の意義と課題」／国歳眞臣さん（鳥取大学名誉教授）

（2）パネラー討議

＜パネラー＞①横山正博さん（千葉県障害福祉課障害者計画推進室長）②国歳眞臣さん（鳥取大学名誉教授）③大阪府政策企画部人権室④大阪府市民局人権室 ＜コーディネーター＞谷川雅彦さん（部落解放同盟大阪府連合会書記次長・政策部長）

Ⅱ「格差社会の是正と人権政策」：大阪人権センター6階ホール

格差拡大社会と最後のセーフティネット（生活保護）―当事者・支援者の今―①「格差社会」についての基本認識を確認し共有する。② 最後のセーフティネットとしての生活保護制度について当事者や支援者の生の声に学ぶ。

<司会> 大北規句雄さん（部落解放同盟大阪府連合会生活運動部長）

（1）基調提案

北口末広さん（部落解放同盟大阪府連合会書記長・近畿大学教授）

（2）報告 「生活保護制度について」

①部落問題の立場から（調整中）②母子家庭問題の立場から・中野冬美さん（しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西理事）③ホームレス支援の立場から・木原万樹子さん（弁護士）

Ⅲ「人権教育・啓発のあり方」：大阪府福祉人権推進センター2階研修室1

①人権意識調査や差別・人権侵害の実態をふまえた人権教育・啓発のあり方を考える。②人権問題を自分の課題として捉え、行動につながる人権教育・啓発の内容創造を考える。

<コーディネーター> 栗本敦子さん（Facilitator's LABO〈えふらぼ〉）

（1）全体報告

「人権教育・啓発の内容をどのようにつくるか」森実さん（大阪教育大学）

（2）実践報告 人権教育・啓発の実践に学ぶ

①戒靖弘さん（茨木市立豊川小学校）②野々口義直さん（西日本旅客鉄道株式会社総務部人権啓発室長）

（3）グループ討論

（4）全体討論

<まとめ> 森実さん（大阪教育大学）

Ⅳ「人権条例と人権のまちづくり運動」：大阪市立浪速人権文化センター5階集会室1

部落差別撤廃に向けた人権条例の具体化と人権尊重のまちづくりをすすめるために。

<進行> 表西貴文さん（まちづくり支援会議）

（1）基調提案 「人権条例の制定状況と活用」

友永健三さん（（社）部落解放・人権研究所所長）

（2）報告 「最近の大阪のまちづくり活動の動向」

寺川政司さん（CASE・まちづくり研究所代表）

（3）実践報告

①大阪府住宅まちづくり部

②塩谷幸子さん（向野まちづくり協議会／羽曳野市）

③中嶋三四郎さん（北芝まちづくり協議会／箕面市）

（4）質疑討論

（5）まとめ

